

大雨がもたらす二次災害…

災害が起こる前に、早めの判断！



いつ、どこで起こるか予想もできない集中豪雨。熊本地震ではほぼ全域にわたり地盤が沈下している益城町では、河川の氾濫などが発生する危険性が以前よりも

高い状況が続いています。発災から2か月後の一昨年6月の豪雨では、内水氾濫により住宅地が浸水し、堤防決壊により水田一帯が湖と化しました。

住んでいる地域で雨があまり降ってなくても、上流地域で大雨になっているとやがて河川の水位は上昇します。上流地域が豪雨であれば、河川の水位は一気に上がり、油断をすれば避難するタイミングを失ってしまいます。周辺地域の気象情報にも常に注意を払い、状況の急激な変化にも直ちに対応できるよう準備をしておきましょう。

大雨が夜に予想されているときには特に注意が必要です。暗くなって大雨の中を避難するのは危険です。特に高齢者や子どもがいる家庭では気象情報を見て暗くなる前に早めの避難を心掛けましょう。もし、自宅周辺がすでに浸水しているなど外に避難することが危険なときは、建物内で可能な限り高いところへ避難する「垂

直避難」をしましょう。また、増水した川や用水路のようすを見

に行き、誤って流されるといった事故が後を絶ちません。不安になると周辺の状況が気になりますが、たいへん危険ですので、絶対に川や用水路には近づかないようにしてください。また、家族の動きなど常に注意を払っておくことも大切です。

大雨時の川の氾濫の危険性を知ることができる

危機管理型河川情報システム

国土交通省では、住民の皆さんが自ら川の氾濫の危険性を知り、的確な避難行動などに役立てることができるよう、水位の情報をリアルタイムでお知らせしています。

益城町内にも水位計が設置されています。ウェブへのアクセスで下図3か所の内水位の記録を確認することができます。

【アクセス方法】
http://www.suigaik.river.or.jp/crisis/map/area10943/area_09.php?area=109431

※ QRコードからのアクセスはこちら→

